

白梅会報

編集・発行 宮城県古川黎明中学校・高等学校同窓会 白梅会
〒989-6175 大崎市古川諏訪一丁目4番26号 電話 (0229) 22-3148

校歌

作詞 土井 晩翠
作曲 陸軍戸山学校
軍楽隊

一、荒雄川 また鳴瀬川
流れ合ふ 大崎平野
水絶えぬ 郷に匂へる
なつかしのわれらの母校

二、一念の「誠」のしるべ
朝夕の たゆまぬ「励」
かがやける 望みにみち
わがみがき 心きたへよ

母校は創立百周年

宮城県古川黎明高等学校（旧古川高等女学校・古川女子高等学校）は今年、創立百周年の輝かしい年を迎えました。

一九二〇年（大正九年）四月十七日に第一学年80名をもって、志田郡役所を仮校舎に開校。校章には梅花を配し、以来、苦寒風雪を圧して開花するその気概と気高きから、白梅を母校の象徴として来ましたが、卒業生は三万名を超え、文武両道の精神の下に、学業に部活動にと真摯に力を尽し、その成果は大きな財産として母校の歴史に刻まれています。

平成二十五年には古川農業試験場跡地に新校舎が、そして二十九年には旧校舎跡地に新グラウンドが完成し、県内有数の教育設備を誇っています。学制も男女共学となり、中学校が併設され、在校生はその豊かな環境のもとで切磋琢磨しながら、この百年に続く次の新しい時代へと、大きな力強い一歩を踏み出そうとしています。

白梅賦

苦寒 風雪をまかしてひらき
争はす

百花のさきがけをなす

枝頭おとし 清楚のまほひ

芳香 おのづから

四辺にたいふ

慕一書

元本校教諭柳和豊一先生の作（昭和34年）



昭和38年～平成25年7月



大正9年～昭和37年



平成25年7月～

「あいさつ」



同窓会長
千葉 典子

天候の定まらないこの頃ですが、同窓生の皆様にはお元気で過ごしでしょうか。今年は取分けこの一言の重みが心に響きます。

大正9年、地域の方々の熱烈な支援があつて母校が創立をみてから、今年で百年となりました。

『大正11年、仮校舎（現古川市役所の地）より新校舎に移転。当日は午前7時に一同集合。机その他持てる物を持って一人何度も運んだ。雪



校長
小川 典昭

100周年を迎えて

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対するご支援・ご協力を頂戴し、深く感謝申し上げます。

1920年（大正9年）に古川高等女学校が開校してから今年で100年。その間、古川女子高等学校、そして古川黎明中学校・高等学校と歴史を刻み、卒業生は3万人を超えることとなりました。100周年記念実行委員長の千葉典子同窓会長様をはじめ、たくさんの方々の皆様

だけのぬかるみは泥田のような有様だったが、窮屈な仮校舎より解き放たれる喜びに比べると、運搬の苦労など物の数ではなかった。……・校舎落成の日、町内では各戸国旗を掲揚し、山車や大行列まで出ての賑わいぶりであった。（創立50年史より抜粋）

同窓会は大正13年に第一回総会が開催され、同窓会報が発刊されました。一時中断の時期もありましたが、会報「白梅」としてその時代時代の情勢を紙上に留めて今日まで来ました。編集の大役を担って下さったのが、毎年交代でその年度の本部総会を進行してこられた当番幹事の皆様です。いつも見事なチームワークで総会を盛り上げてくださる皆様とお会いするのが、この上もない楽しみです。

の総力を結集し、記念事業を成功させるべく、各支部においてその機運を盛り上げていただいております。ことに、改めて感謝申し上げます。令和2年10月23日（金）には100周年記念式典が本校で開催されます。厳かで、かつ盛大な式典となるよう、多くの同窓生の皆様のご出席を賜りますようお願い申し上げます。さて生徒の活躍についてご報告させていただきます。本年3月の卒業生の進路状況ですが、大学・短大が73・5%、看護系を含む専門学校が20・0%、就職及び公務員が22%でした。大学進学者のうち、国立大学には47名が合格し、いわゆる難関大学には、黎明高校始まって以来初の京都大学理学部の合格、そして東北大学にも法学部と薬学部の合格者を輩出することができました。

今年にはコロナ禍で役員会も本部総会も開催できず、郵便を介して御意見を集約させていただきました。支部総会も同様のようです。百周年事業のうち、同窓会名簿と記念誌の発行は予定通りですが、記念式典は規模を縮小しての実施となります。記念事業にあたり、いろいろな形で御支援のお気持ちを届けてくださった同窓生の皆様には、心から感謝申し上げます。創立以来築かれてきた歴史と伝統の上に、母校の百周年への皆様の思いを乗せて、次の百年に向けての力強いスタートになればと願っております。

最後になりますが、母校の皆様の益々のご活躍、同窓会の発展、そして同窓生の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

また、文部科学省より2期目の指定をいただいた「スーパーサイエンスハイスクール」事業については、高校1年生が取り組んだ課題研究「大崎耕土学習」に、将来、イノベーションリーダーとして活躍する黎明生の姿が、おほろげながらも見えた気がいたしました。まだまだ研究の途についたばかりではありますが、5年間の事業の残り4年間を生徒教員が丸とって取り組んで参りたいと思います。

令和2年度は思いもかけないスタートとなりましたが、この難局をきつと黎明生は乗り越えてくれると信じています。本校生徒に対する、同窓生の皆様のこれまで以上のご支援・ご声援をお願い申し上げます。

母校100年のあゆみ

大正9年4月17日 志田郡立古川高等女学校として開校式・入学式を挙行
以後、この日を本校開校記念日とする

- 10年 県立に移管、「宮城県古川高等女学校」と改称
11年 新築校舎竣工
昭和2年 制服改正（背広型、ズボン、ひだスカート）
4年 校歌制定
9年 校章制定
11年 弓道場落成
17年 同窓会報「白梅」発刊
23年 「宮城県古川女子高等学校」に移行
校章制定
定時制開始（本校・松山・三本木・敷玉）
25年 制服改正（セーラー服）、図書館竣工
27年 三本木分校廃止
第1回宮城県高校総合体育大会 総合優勝
28年 第2回宮城県高校総合体育大会 総合優勝
30年 敷玉分校廃止
制服改正（背広型、～平成16年）
34年 生徒会発足、生徒会誌「白梅」第1号創刊
36年 第10回宮城県高校総合体育大会 総合優勝
36, 37年 対石巻女子高校 定期戦
37年 県北部地震（震度5）本館2階使用不能
38年 第1期工事～45年第7期工事 校舎竣工
39年 体育館竣工
42年 衛生看護科併置
43年 水泳プール竣工
45年 食堂、白梅山荘（鳴子鳳鳴平）完成
47年 白梅寮閉寮
49年 ロードレース開始（～平成6年）
50年 弓道場完成
55年 松山分校廃止、松山高校独立
59年 白梅会館（同窓会館）落成
平成2年 文化部室建設
5年 運動部室建設
10年 第2体育館建設
16年 衛生看護科閉科
17年 「宮城県古川黎明中学校・高等学校」男女共学、中高一貫教育校として開校
25年 新校舎落成（元古川農業試験場跡地に）

令和元年 同窓会名簿発刊
2年 創立100周年記念誌発刊
創立100周年記念碑建立
創立100周年記念式典

100周年に寄せて



旧職員 高橋 都

昭和六十三年に退職するまでの三十五年余りを、古川女子高の家庭科の教員として過ごすごとが出来ました。

戦後と呼べるこの時期は日本の社会も教育をとりまく環境も大きな変革期にあり、教科書もしっかりとした内容のものがない暗中模索の年月でした。

この様な中にあっても何とか日々の授業に取り組めたのは大崎耕土の農村に育てられた生徒達の真つ直ぐな向学心と学校教育に期待している地域、家庭の支えがあったことでした。当時、進学熱も高まり、受験競争も激しくなっていく中で、受験科目ではない家庭科の位置づけは難しいものでした。人間が生きる上での基礎的な教科としての誇りと意義を持ち続けることが出来たことは幸でした。

高校生として、生徒自身の育ちゆく力をサポートしながら地に足をつけての生きる力を養う授業は私自身大きな励みでした。また、平行し

ての家庭科を男女共修にという願いは地道な草の根運動でした。私の退職後数年して国連主導の国際婦人年に呼応してやっと実現しましたが、草の根が実現するまでには長い年月が必要でした。やっと教育内容の男女平等が実現したわけです。私は女性だけの「家事裁縫」の教育で育てられましたが、生きる力の基礎力としての教科として生まれ変わったわけですね。

私が赴任した頃の十五、六歳の女子高校生の生活力はすごいもので、学校を出たばかりの何もわからない私を陰に陽に支えてくれたのは現在八十歳、七十歳代の生徒達でした。実例を述べていったらきりがありません。

文化祭のバザーでの食堂では終日「おでん」や「うどん」作りに汗を流し1日に何百食も売り上げました。献身的とかボランティアなど、言う前に青春の力をぶつけた様な働きぶりでした。

生きてきて、この様な文章を書くことが出来るのも幸々なことです。

皆々様本当にありがとうございます。

心からの感謝を込めて
（追伸）私は当年九十歳の人生を生きております。毎日が初体験です。

卒寿かな 時にうろたえ 時は春

2020の春 誕生日に（都詠）

当時の古川女子高



旧職員 名雪 國男

私が古川女子高校に赴任したのは、昭和三十八年四月でした。戦後のベビーブームの子供たちが高校に入学した時期で、私は教員生活三年目の二十三才でした。

校舎は、体育館を間仕切りにした教室やアリーションと言われた離れた離れた教室、天皇陛下を接待したという特別な教室、階段教室などがありました。

校門をくぐって右手には、校長先生の舎宅があり、左手には寄宿舎とその一部を間借りした定時制四年の教室がありました。

学校は、若い私たちを大切に育ててくれました。なかでも、大歓迎してくれたのは生徒である乙女たちでした。

学校は、仕事の間であり、遊びの間でもありました。何より生徒と一緒に居るのが楽しかった。

たし、期待に応えられるように励むことが張り合いになっていました。

学校行事にも熱が入り、運動会や文化祭はもとより、合唱コンクール・海浜学校・野外炊飯・潮干狩り・スキー教室・ホームルーム合宿・予餞会・クラス旅行など夢中になって取り組みました。

教科は数学を担当し、毎日ガリ版で教材を作りました。クラブ活動にも熱中し、ソフトボールでは全国大会も経験させていただきました。衛生看護科が出来て四年目には、担任として勉強させてもらいました。松山分校は一年間でしたが、貴重な経験をさせていただきました。

担任として、また、クラブ顧問として苦楽を共にした多くの乙女たちの姿が思い出されます。

私は、生徒の紹介で見合いをし、結婚しました。三人の娘を授かりました。妻も三人の娘も古女の門をくぐりましたので、一緒に校歌を歌うことがあります。でも、四番まで歌えるのは私だけです。私は十七年もお世話になったのですから。今は、サックスプレイヤーである三女夫婦と孫に囲まれて恙無く暮らしています。

小論文「私、命懸けてますから」



旧職員 伊藤 豪美

四月、諏訪公園の桜を見ながら、ふと思う。桜がよく見ると、白から紅、そして黄や緑もあるんだなあ。私が古女で過ごした四年間は、桜の花びらが匂やかな風に吹かれて私の目の前をゆっくりと通り過ぎていく、そんな穏やかな時間であった。そして今振り返ると古女で過ごしたあの日々が、私を大きく成長させてくれたと実感している。

当時の古女は、生徒の自主性を重んじ、決して課外学習や補習を強制することはなく、よって学習については個人的に指導を受けている生徒が多かった。私も数名の生徒に対して、定期的に現代文の添削指導を行っていたが、夏休みに小論文指導も行っていたの申し出があり、快く承諾した。しかし七月には三者面談があり、教室が使用できないため、仕方なく最も暑い八月に小論文講座を実施することになった。気温三十五度、湿度七十%を超える劣悪な状況で、はたして本当に生徒が来るのかと心配であったが、無事受講生四人が教室に到着した。（一人は体調不良のため途中帰宅）私は「こんなに暑いのによく来たなあ。正直来ないと思ったよ」と言うと、生徒は「私、命懸けてますから」・・・（思わず絶句）

生徒の健康状態を確認し、小論文講座開始。初めに小論文と作文の違いを教え、小論文とは命題に対してイエス・ノーを答えるものと説明し、早速「制服は必要か。必要ないか」というテーマで、自分の考えを三百字程度で書きなさい。」と指示した。その後、額に汗をかきながら、（命を懸けて？）書き上げた小論文がこれである。

私は制服に賛成である。理由は以下のとおりである。

制服は高校三年間着るものである。私はその三年間に心から歓喜し、また苦しい時には思わず涙したことも多々あった。特に高校最後の県総体では、私のミスで負けちゃった。みんなに申し訳なく、大粒の涙が止まらなかった。そして、その涙が私の制服の袖にしみ込んだ。常に一緒だった。私の制服には、私

がこれまで流した涙や汗がしみ込んでいた。私の制服には、私は苦しくなった時、この制服を見る。すると制服は頑張れと私を励ましてくれる。そして私は頑張れる。制服は私の元気の源であり、なくてはならないものである。

以上、制服は必要である。

そして、隅の方に小さな文字で「古女は暑い！ 死ぐうでもサイコー」との表記あり

暑さに負けることなく、笑顔を絶やすることなく、そして頑張る生徒。そんな生徒たちに囲まれて過ごした四年間はとても幸福だったと思う。そして二十年経った今でもこの小論文は、書き方の見本として使っている。

出会い

高2回生（昭和25年卒）
坪井 節子
（旧姓 高橋）

令和元年の冬、途だえて久しいポーランドのポエダ夫妻からクリスマスカードを頂く。

30年程前に、千葉市内にある放医研（放射線医学総合研究所）に2年間留学した方だった。一昨年の春、放医研が一般市民に公開されたので、古川から訪ねて来た甥を同伴して見学した私を誰か通報して下さったのだろう。

私の女学校入学は戦時で翌年の8月には、広島と長崎に原爆が投下されむごい敗戦だった。続いて高校在学中は、単身赴任中の父が栄養失調で逝き、悲しいどん底の中、古本屋で「キューリイ夫人伝」に出会い、ラヂウム発見の途上で見えない光が体をむしばむ、を知る。国費で仙台の看護学校に3年間学び、内科に3年勤務して、古川から保健婦学校に通う。卒業間近の車中で、太宰治の作品について語る青年と出会い、今まで読んだ本のすべてを語りつくして楽しく、名を告げずに別れた。4年後、青年が専攻を替え、東北大学修士に入学、28歳と29歳で結婚。4年後千葉へ。

5年後、夫が放医研からアメリカへ留学、私の退職金が渡米費に。6ヶ月先に留学した夫は、私と3人の子の運賃、千ドルを送金して来た。1ドル360円時代である。

アジア人が街にあふれ、すれちがう度に、日本軍が犯した罪に私は胸が痛んだ。

2年間の留学で夫は、後進国だったポーランドからポエダ氏を受け入れた。休日には、私が家族4人のゆかたを縫ったりして夏祭りに着せて楽しませる。韓国からも受け入れる。

夫が60歳のとき、ポエダ夫妻から2週間招かれる。シヨパンの生家でカワイピアノで、マズルカやノクターンを聞く。古都クラコフでは、黒川紀章のホテルが整然と建っている。

夫が定年から5年目、奥穂高を征服して下山後、疲れを連発してがん告知され逝った。

韓国から女性研究者の夫、張氏が同郷の、金大中の親書を持って来訪、文化の発達に貢献した最も身近な大統領、続いてポエダ夫妻が一泊して暮参り、現在首相が来日中。

（百周年記念誌より）

伸びのび、毎日が

高11回生（昭和34年卒）
増田のり子
（旧姓 鈴木）

新鮮の高校生活

顧みますと、古女高を卒業して早61年も経ち、まさに「光陰矢の如し」の感がします。なつかしい思い出の校舎は、なくなっただけで、高校時代の楽しかった思い出はいろいろとよみがえってきます。入学した時、1学年三百名を超す人数の多さに圧倒され、また階段教室、上下する黒板なども驚きで、見るもの聞くもの、すべてが新鮮に感じられました。1年のクラスのメンバーは知らない人ばかりで、不安で小さくなっていました。でも、やさしく声をかけてくれる人が増え、次第に伸びのびとした学校生活が送れるようになっていきました。教室は「アリーション」というあだ名のつく光が当たらないとても寒い教室でした。でも、私たちはその寒さを乗り越えました。おそらく、授業が充実していて、ユニークな先生方が多く、授業も友達のおしゃべりも楽しかったからかもしれません。あの時代は、今日のように競争とか受験勉強は、それほど激しくなく、学校全体がゆったりとしていて、余裕があり、私はとてもよい学校だったと思っています。学校行事にもそんな自由な雰囲気がありました。運動会の種目に学級対抗の仮装行列があり、1年の時は小説「坊ちゃん」に登場するおもしろいあだ名がついた先生方や男子生徒の格好をして楽しみ、3年の時は、海の勇者「バイキング」の勇壮な装いで暴れまわって会場を沸かせたことが思い出されます。私たちは、課題にはいつもみんなで知恵を出し合い、力を合わせて取り組み、達成の喜びを分かち合って学校生活を楽しんだように思います。

母校の校章に、校歌にも歌われている白梅は、風雪に耐え、他の花々に先がけて咲く凛とした花で、私は今も心の拠り所にしております。熱心に指導してくださった恩師の先生方、そして共に学び語り合った学友の皆様には感謝の念でいっぱいです。最後に、母校の益々の発展を心よりご祈念申し上げます。



過去3年間の卒業生の進路

	平成29年度		平成31年度		令和元年度	
	(H30.3月卒業生)		(H31.3月卒業生)		(R2.3月卒業生)	
	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数	合格者数	進学者数
国公立4年制大学	29	26	50	46	47	43
私立4年制大学	298	121	347	114	300	117
国公立短大			2	2	2	1
私立短期大学	16	11	22	17	5	5
大学学校	1	1	1	1	2	2
専修各種学校	37		35		45	
公務員	4		10		2	
民間就職	5		3		3	
進学準備	14		7		9	
その他	2(海外進学1)		0		0	
卒業生数	221		235		227	

過去3年間の卒業生の主な進路先

【国公立大学】

室蘭工業大、帯広畜産大、北海道大、北教大函館校、北教大釧路校、北見工大、弘前大、岩手大、宮城教育大、東北大、秋田大、国際教養大、山形大、福島大、茨城大、筑波大、宇都宮大、群馬大、埼玉大、千葉大、東京学芸大、東京農工大、横浜国立大、横浜国立大、新潟大、信州大、富山大、山梨大、京大、静岡大、防衛大学校、国立看護大学校、東北職能大学校、岩手県立大、宮城大、山形保健医療大、秋田公立美大、福島県立医科大、長岡造形大、群馬県立女子大、高崎経大、静岡県立大、千葉保健医療大、神奈川保福大、山梨県立大、都留文科大、長野県立大

【私立大学】

札幌学院大、酪農学園大、青森中央学院大、八戸工業大、岩手医大、盛岡大、宮城学院女子大、尚絨学院大、石巻専修大、仙台大、仙台北百合女大、東北医薬大、東北学院大、東北工大、東北生活文化大、東北福祉大、東北文化学園大、日赤秋田看護大、東北芸術工大、東北公益文科大、奥羽大、つくば国際大、国際医療福祉大、白岡大、群馬バース大、埼玉工大、女子栄養大、文教大、獨協大、亀田医療大、秀明大、聖徳大、千葉科学大、千葉工大、和洋女子大、共立女子大、実践女子大、玉川大、駒澤大、国士館大、芝浦工大、順天堂大、昭和女子大、跡見学園女子大、上智大、成蹊大、専修大、早稲田大、大妻女子大、大東文化大、拓殖大、中央大、津田塾大、帝京大、東京音大、東京工科大、東京女子体育大、東京農大、東京理大、東洋大、日本女子大、日本体育大、日本大、日本工業大、白百合女子大、明治大、目白大、立教大、立正大、城西国際大、神田外語大、フェリス女大、鎌倉女子大、関東学院大、北里大、神奈川大、東海大、洗足学園音大、東洋英和女学大、新潟医療福祉大、金沢工大、金城学院大、名古屋学院大、愛知学院大、花園大、立命館大、清心女子大、福岡大

【国公立短期大学】

山形県米沢女子短大、岩手県大盛岡短大、宮城誠真短大、聖和学園短大、仙台青葉学院短大、仙台赤門短大、創価女子短大、東邦音楽短大、跡見学園短大、大垣女子短大

【看護医療系専門学校】

気仙沼病附看護専、水沢学苑看護専、岩手看護専門学校、美会仙台看護専、大崎市医師会附属看護学校、仙台市医師会看護専門、石巻赤十字看護専、仙台医療センター附看護、仙台徳洲看護専、東北労災看護専、都立在原看護専、板橋中央看護専、獨協医大附看護、浦和学院専門学、戸田中央看護専、上尾中央看護専、旭中央病院附看護、千葉労災看護専、日本医大看護専、JRI東京総合病、昭和大医附看護、横浜労災看護専、横浜中央病附看護、西宮市医師会看護専

【公務員・民間就職】

大崎市初級行政、大崎市病院事務、美里町職員、加美町職員、宮城県職、国家公務員仙台地方検察庁、国家公務員宮城労働局、国家公務員一般職東北、自衛官(候補生)、富谷市職員、宮城県警察官B、国家公務員関東甲信越税務、YKKAP株式会社、アイリスオーヤマ株式会社、アルプス電気株式会社古川工場、大崎市管工事業協同組合、株式会社東亜レジング川、株式会社西巻、株式会社古川ボンブ製作所、有限会社創電社、トヨタ東北株式会社、ヤマセエレクトロニクス株式会社、有限会社バレット、株式会社共立メンテナンス、株式会社オリエンタルランド、西日本旅客鉄道株式会社、株式会社東北黒沢建設



生徒いこそ

進路指導部長 木村 秀一

同窓生の皆さん、同窓会役員の皆さん、いつも生徒たちのことを温かく見守ってください、また節目節目にたくさんのご援助をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。

今年の春は新型コロナウイルスの影響で、この原稿を執筆している現在も、いまだ生徒の登校が許されない状況が続いています。生徒のいない学校でデスクワークに追われる日々の中でつづく、学校というものは生徒たちがいてこそ場所であることを痛感します。例えば九年前の春も同じ思いで過ごしました。未曾有の大災害に一瞬のう

ちに未来を、あるいは日常を奪われた人々に胸を痛めながらも、それでも自分分は教師としてなすべき事をなそうと思ひ直し、学校再開までの一月半、めちゃくちゃになった校舎の片付けに通いました。当時の校長先生の陣頭指揮のもと、今日は化学室、明日は図書室と夢中で作業をする中でいつしか、この一日一日の作業の先には子ども達との再会が待っているのだという確実な未来への希望に、ともすれば膠着しがちな心が徐々に溶かされていくのを感じたものでした。学校再開を語りながら久しぶりに飲んだ温かい味噌汁の味、荒廃した瓦礫の中でもそれまでと変わらず、凛と咲く白梅の美しさに心動かされたのもその時のことでした。

時たま荷物を取りに学校を訪れる生徒をつかまえては交わすたわいのない会話が、こんなにも貴重で、愛おしい時間だったこともその時改めて感じたことでした。そして、いよいよ学校が再開された日の生徒たちの歌う校歌の素晴らしい歌声は、僕にとっては生涯忘れ得ないものとなりました。

僕は幸運にもその年に入学した一年生の学年主任を仰せつかったこともあり、ありつたの思いを込めて三年間を送ったものでした。そして彼らの在学中に、たくさんの同窓生と在校生の思い出が詰まった旧校舎が取り壊され、いよいよ旧校舎を立ち退く日には生徒諸君と職員とで心を込めて雑巾がけをしてお別れしました。昨年この紙面で触れましたが、自分の受け持った学年の生徒たちには、この校舎で青春時代を過ごした多くの先輩たちに思いをはせ、この節目に立ち会う者の大切なつとめとして、先輩たちの分もこの校舎に感謝してお別れしようと話したものでした。

震災の年に入学し、旧校舎の解体を見送り、新校舎に初めて入ったその年の生徒たちは、学校への思いもひときわ強く、二十五歳になる今でも学校を訪れてくれます。そして、旧校舎解体の際に切り倒されていくのが忍びなく、かろうじて移植した僕の庭の三本の白梅達にも会いに来てくれます。

結びになりましたが、左表に今春の卒業生の進路状況を示させていただきました。どうぞ今年度も後輩たちのことをよろしく願ひいたします。



本部総会だより



令和元年八月四日(日)グランド平成にて令和元年度古川黎明中学校・高等学校同窓会白梅会総会並びに懇親会が行われました。参加者は百名。総会では全ての議案が承認されました。

その後、吉野作造記念館館長・氏家仁様による記念講演「大崎の女子教育の歴史と現代」が行われました。懇親会は古川黎明高等学校校吟詠剣詩部愛好会による演舞や、声楽家佐々木ひろ子様(高52回生)による校歌や日本の叙情歌、イタリアパロック歌曲が披露され、笑顔あふれる素晴らしい宴となりました。

支部だより

関東支部

一月の「四校新年の集い」には郷里を想う一九二名が集まりました。一部では小川校長先生よりこの秋、黎明高が創立百周年を迎える事が報告され大変誇らしく思いました。

二部では五名のご来賓の方々と昭和五五年卒をはじめとする大先輩の方々が一つのテーブルを囲み、先づは「ずんだ餅」を頂きながら談笑致しました。又昨年水害のあった鹿島台地区への募金も行

われました。

初参加のご来賓の皆様はあまりの賑やかさに驚かれた事でしょう。

最後は、副会長の阿部澄江様(高24回生)の黎明らしい美しい「北上夜曲」

で締めました。五月の関東支部同窓会での再会をお約束しました。

三月に入りコロナウイルスによる思わぬ事態となり中止を決定しました。五月を迎えましても終息の気配がありません。輝かしい創立百周年の大事な年に開催出来ず、残念でなりません。校長先生及び諸先生方、そして各支部の皆様にはくれぐれもお大事に過ごされますようお願い致しております。

支部長 萩原 節子

仙台支部



支部の歴史を二〇〇六年の資料を参考に記してみます。総会懇親会は仙台市内のホテルで参加九〇名強・アトラクションも交えて開催していました。二〇一〇年には



「支部創立四〇周年記念」総会の記録があります(逆算すると当支部の発会は一九七〇年頃でしょうか)二〇一一年(大規模な総会は運営上の支障等で休止、当時の役員有志で支部会を存続してきました。(先輩方の「苦勞」に感謝です)ここ数年は参加年代も広がりました。今!!仙台支部総会の「盛会」の概念は参加数の多少ではなく、各々が「会えて良かった、楽しかった」と呼ばれる会を、盛会」と言います。

※二〇二〇年五月 新型コロナウイルス終息を願って。

支部長 鷺尾 純子

石巻支部

白梅会石巻支部は十年前までは母校の発展を願う熱い思いを抱いて集いが持たれていたのだろーと思ひます。突然の東日本大震災の発生。私事ではありますが、大規模半壊、義母の震災関連死と大変な思いをしました。私だけではなく支部会員の方々もお一人ひとり被災者でありドラマがあります。

以来支部会は断絶。同窓会々員の方々には復興、再生を願う日々穏やかな生活を望みながら、天災・コロナ災と戦う毎日であろうと存じます。三年前、支部の再発足を願う本部より支部長を仰せつかり、支部会員探しに四苦八苦しております。過日白梅会報の原稿依頼を受け、高齢の身に大変重要な仕事ではありますが紙上にて、先輩・後輩の方々の交流の場を作り上げたたくペンを取らせて戴きました。まずは連絡先を記しますので(支部長)《地区幹事》のどちらかにご一報をお願い致します。

〈支部長〉

唯根恒子(高14回生・昭和37年卒)

〈地区幹事〉

石森真理(高43回生・平成3年卒)

十年前に津波でお亡くなりになりました渡辺ルイ子支部長様の志を引き継ぎ母校に恥じない支部作りとその輪を広げていきたいと思っております。

支部長 唯根 恒子

田尻支部

平成二十三年に誕生した田尻白梅会。前平野会長の声掛けで生まれ十年目となりました。

春の総会と秋の移動研修会。年二回の語らいを楽しみに会員達は集まっています。

総会には本部から千葉会長様、小川校長先生、事務局からもおいでいただき、母校の現状や後輩たちの活躍を話して下さいます。令和元年度の講演は大崎市が





世界農業遺産に認定された記念に「大崎市の農耕文化の継承と田尻地域の遺産について」で講師は大崎市文化財課の車田敦氏でした。

年は母校からOGマンドリンククラブの皆様や大山義男先生と書道部の皆様をお招きして素晴らしいパフォーマンスをみせていただきました。

又、秋には大崎市のバスを借りて仙台の瑞鳳殿と輪王寺の見学です。ホテル白萩でのおいしいランチ。杉木立に覆われた厳かな仙台藩祖政宗の御廟。目や心に安らぎを与えてくれる池泉回遊式庭園の輪王寺。もえるような紅葉は、私達を元気にしてくれました。

支部長 佐藤紀久子

鹿島台支部

我が支部は昭和五十一年に結成されました。私は平成二十九年に引き継ぎ皆様に助けられながら楽しい会作りを目指してまいりました。

昨秋には吉野作造記念館をお借りし、移動総会、館内研修、会員の親睦を計画していましたが、十月十二日の台風十九号に見舞われ大きな被害を受け中止しました。

会員さん達は地域の人達と共に被災者の方々への手伝い、食事の提供、ボラン

ティアの方々への対応と奔走して下さいました。

そして今は新型コロナウイルスの恐怖と戦いの生活を強いられています。今は、皆で心一つにして声をかけながら、終息に向けて頑張っています。

秋に迎える創立百周年を心穏やかにそして晴れ晴れしく迎えられることを祈っております。それに向けてご尽力下さっている会長さん始め役員の皆様に心より感謝申し上げます。

野山の緑、空の青さがいつまでもいつまでも観られますように願って止みません。

支部長 佐々木昭子

小牛田支部

母校創立百周年おめでとうございます。創立六十周年（昭和五五年）以降、白梅会館建立（昭和五九年）の頃は、同窓会活動が大変活発に行われていました。小牛田支部も当時は年会費を徴収し、地区委員等役員体制を整えて、総会では、歌あり踊りありと大変盛会でした。しかし、支部としての活動をしなくなって久しくなります。この度の百周年を機に何とかしなければと思っているところです。

支部長 遊佐 雅子

三本木支部

三本木支部交流会を開くようになってから16年目になります。

交流会という名称は、同じ高等学校を卒業した方が全員集えるように、そして総会形式をとらないで続けようという願いからでした。集まる日はいつも梅の香

りがほのかに漂って和やかになります。

来年は地元で三本木が産んだ「二階堂トクヨ先生」のお話をいただくということになりました。二年に一度の企画ですが、地元広報誌でお知らせをして、みなさんが集まれるような活動を続けていきたいと思っています。

支部長 二郷 成子

色麻支部

大笑いと健康

四十数年も前のこと、古川女子高等学校同窓会、色麻支部が設立されました。もちろん親子ほどの年齢差がありました。が、母校の種々な想い出を語り合える、和気あいあいの支部同窓会でした。年度が重なる毎に、様々な課題が生じ、一時お休みの状態にもなりました。数年前に少人数ながら再発足したところです。多方面にて優秀かつ活躍されている後輩のすばらしさを語り合い、目の前のランチ、『おいしそう!!』と笑い、大声で笑えることが心身共に健康だね。と、又笑い。

小さくても力

強い「心の輪」

を少しずつ、大きく、願っています。

いるところです。



支部長 佐々木絃子

高清水支部

今年も本校のシンボル白梅も満開の笑みを誇りに開花されましたね!!

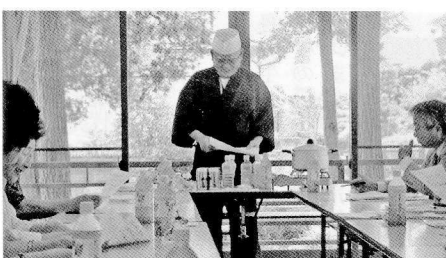
創立百周年を迎える今年、大正九年四月古川高等学校、昭和一九年四月古川黎明女子高等学校、平成一九年四月古川黎明

中学校・高等学校として校名も変更し、校舎、グラウンド等も一新され、すばらしい学校になり、卒業生の皆様は、誇らしく思っていることと感じます。

本部同窓会も大正一三年に発足して以来、毎年開催されることに、頭の下がる思いで参加させていただいております。ありがとうございます。

高清水支部も平成四年に発足して以来第二一回になりました。

それまでには、本部同窓会、学校側からの御協力のもとで、次のようなすばらしい支部会が出来たことに感謝しております。



主な催しものとして

平成 五年 本校新体操部の演技（高清水会場）

平成一四年 中新田高校カヌー部、空手見学

平成一七年 田尻高校岩渕成紀先生より「ふゆみずたんぼ」講演

平成一八年 佐沼若鮎社長伊藤俊郎様講話

平成二一年 渋谷つづじ様の「おしはい」

平成二二年 佐々木一彦校長先生より古川黎明中学校・高等学校にての現況講話

平成二八年 古川女子高OG女性デュオ「ル・レーヴ」阿部澄江様、森由紀様（高24回生）による、すばらしい演奏を披露していただき、いやされました。

令和 元年

弁護士狩野直樹様「相続について」や振り込め詐欺についてでも、わかりやすくお話をいただき大好評でした。(地元出身)
その後町内の「七清水の謎」として、教材用ビデオ鑑賞をし、これ又大好評を得有意義な時間を得たことに感謝しております。



支部長 鎌田美代子

宮崎支部

先輩からの引き継ぎで役員になって十数年になります。宮崎支部として懇談会を持ちたいと思ひ呼びかけましたが実行出来ませんでした。小野田、中新田、宮崎と合併して加美町になり、三回ほど会を持ちました。集まった人数は二十数名でしたが、大先輩の小林先生に音頭をとって頂き、女子高時代の話に花が咲き、盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。その後は、小林先生が体調を崩し実

現されていません。残念でなりません、これからは後輩の方々に協力を願って加美町の同窓会が実現できます様に努力したいと考えております。

支部長 斎藤せい子

古川支部

平成元年に母校の地元ということで、支部同窓生の期待を担って発足。以来、毎年欠かさずことなく総会・研修会と活動して来ましたが、この百周年の機会に新体制でスタートし直すことになりました。今後共、よろしくご支援お願い致します。

支部長 佐藤 恵子

お菓子

「水絶えぬ郷」完成

令和2年7月
3年生が2年次の総合的な学習の時間・課題研究で地産地消の研究から大豆を使ったお菓子を開発し、商品化されました。題字も書道部の生徒の作品です。商品開発にあたり大崎農業改良普及センター、宮城学院女子大学食品栄養学科の先生方等多くの方々にご協力いただきました。



現在 大崎市三本木「気仙堂」さんにて1個120円(税別)で販売中です。

「創立百周年に寄せて」

在校生の声

進み続ける学校

黎明高校生徒会長 三年 三野 正太郎

新型コロナウイルスの影響による休校期間も終わり、元のような日常が戻ってきました。

さて、本校は古川高等女学校の開設から百年という節目を迎えました。百年の歴史を感じる機会はそれ程ありません。しかし、今、女子高から始まった学校で、男である私が生徒会長を務めております。それを考えると、社会の変革や時代の流れを受け入れ、進化し続けてきた学校の奥深さを感じます。今後も学校を進展させ続けるため力を尽くします。

百周年にあたり

黎明中学校生徒会長 三年 竹内 雅樹

今年、私たちの学校は創立百周年という節目の年を迎えました。百年という歴史の重みを感じると共に、記念すべき年を迎えられたことをうれしく思います。

私たちの学校は十五年前に男女共学化、県内初の中高一貫校へと生まれ変わりました。私たちには、これまでの伝統を継承しつつ、さらに良い伝統を作り上げていくことが必要です。百年という歴史を経て、「黎明」すなわち新しい未来へ変革をもたらしべく活動していきます。

同窓会本部・支部の事業報告

(令和元年度)

- 5月25日(土) 関東支部総会 品川プリンスホテル
- 7月7日(日) 古川支部総会 グランド平成
- 7月28日(日) 田尻支部総会 大崎市田尻沼部公民館
- 8月4日(日) 同窓会本部総会 グランド平成
- 11月16日(土) 仙台支部総会 菜時季 大原
- 11月30日(土) 高清水支部総会 高清水地区コミュニティセンター

謹んでお悔み申し上げます。

- 同窓生 米城(米城)美智子様(S14卒) 同窓会元会長
 - 同窓生 高橋(高橋)初江様(S42卒)
 - 同窓生 木村(千葉)花枝様(S40卒)
 - 同窓生 庄司(太田)美和子様(S19卒)
 - 同窓生 同窓会元古川支部長
 - 同窓生 佐々木(松本)圭子様(S32卒)
 - 同窓生 旧職員(S62年・H2年)
 - 同窓生 佐藤(佐々木)キヨ子様(S37卒)
 - 同窓生 横山(横山)隆子様(S34卒)
 - 同窓生 小林(佐々木)勝子様(S31卒)
 - 同窓生 同窓会元中新田支部長
 - 同窓生 今野(今野)節子様(S27卒)
 - 旧職員 渡邊毅様(S44年・S56年)
- 同窓生等がご逝去された際には、弔電をお送りいたしますので、同窓会までお知らせください。

同級生は今

古女から続く今の道



平成13年卒
佐藤ゆかり

同級生の皆様、恩師の先生方、お元気です。この度は懐かしい同級生の連絡会を同窓会報へ寄稿させていただく機会をいただきました。ありがとうございます。思い出巡らせると古女を卒業しても19年も経ったのかと感慨深い気持ちでいっぱい。古女で過ごした時間が今の礎となり、一歩一歩自分の人生を進んでいきます。とはいっても、色々と寄り道をしながらであり、褒められるようなものでもありません。ただ、今思い返しても未熟な高校生だった私がこれだという職を一つ選択できるには経験や刺激が色々不足していたのだと思います。

まず、高校卒業後を考え、将来像が漠然としていて何をしたらいいのかはわからなかった私は、勉強するな、好きなものがないという不安な考えで英語ができる大学へ進みました。そこからの大学生活は実家から出て一人暮らし、友人とのサークル活動、アルバイトなど、満喫することができました。そこで一番の刺激になったのがカナダでの語学留学です。井の中の蛙というのとはこのことなのか、と世界の広さを実感し、より英語が好きになり、さらにそれを教えたいという教育への道を選ぶことになりました。

中学生、高校生への通信添削による英語指導。学校の先生という選択にならなかったのは大勢の生徒より一人ひとりの生徒に向き合えたかったことと、

中学生の時に入っていた塾が楽しかったイメージが強かったからです。ここでは新卒として社会人経験を積むことができたが、2年経った頃どこかこのまま続けてよいのかという迷いが生じ、一つの転機を迎えます。首都圏にしかなかった好きなアロマ系の雑貨店の仙台への出店が決まり、いともたつてもいられず、アルバイトとして働くことを決めます。正社員からアルバイトへと生活は激変してしまっただけですが、やらない後悔よりやった後悔の方がいいかという気持ちで決断をしていました。好きなことを仕事にするのは楽しくもあり、接客を通してホスピタリティやコミュニケーション能力を身に付けることができた充実した時間でした。今もそこでこの選択をして良かったと思っています。その後は落ち着いた将来を目指し、再び教育業界に戻ります。これまでの経験からリーダーシップを取るより土台として支えるタイプなのだと思います。教務兼総務として生徒・保護者や先生たちをサポートする側に従事しました。学生時に選択できなかった経験がここに活かされたかと思えます。そして30代にさしかかり、やがて教育の現場で職を全うすると思いついたのですが、思いがけずまた一つの転機があり、現在はIT業界にいます。情報インフラを支えるAWS運用保守のエンジニアです。18歳の頃には全く想像していなかった仕事をしていきます。資格や経験を積み、これから長く続けられる仕事であり、情報の流れも速く刺激的であり、未知数な仕事に今は毎日楽しくも忙しい日々を送っています。ここまで寄り道も多かったのですが、一つ一つが私の身となり、経験となつて今に繋がっていますので、これからもマイペースに歩んでいく所存です。

末筆ではございますが、同窓生、恩師の皆様は今後ますますのご活躍とご健康を祈念申し上げます。

出会いに感謝



平成13年卒
武田こずえ

この度、同窓会報に寄稿できますことを嬉しく思いながら、当時のことを思い返しました。

私はこれまで、自分の意思というより、誰かの影響を受けることが多く、人生の転機になった出会いが何度もありました。

小学生の頃、従姉の影響を受け看護師になりたいと思いはじめました。衛生看護科に進学し、一般科目の他に専門科目を学ぶことは大変でしたが、同じ夢を持つ仲間と支え合いながら充実した時間を過ごすことができました。母性看護の授業の中で、助産師である恩師の障害を持つ赤ちゃんと母親の話に感銘を受け、助産師になりたいと思うようになりました。看護専門学校、助産師学校に進学し、看護師、助産師の資格を取得後、総合病院に勤務しました。産婦人科病棟配属となり、妊娠、褥婦だけでなく婦人科疾患患者の看護を行うようになりました。その中で、がん化学療法を受ける患者が、妻として母としての役割が果たせず、悩みを抱えながら治療を受けている現状を目の当たりにし、私にできることはないかと考え、がん化学療法看護認定看護師の資格を取得しました。がん化学療法看護認定看護師の役割は、薬剤の特性と専門的知識を用いて、患者と家族が治療に対する十分で適切な情報を得

たうえで治療選択ができるよう、また、治療を受ける中で起こる身体的・精神的・社会的問題に対し、一緒にケアを考え、少しでも苦痛なく過ごせるよう看護師と共に看護していくことです。私は、助産師として女性のライフサイクルを通して継続的にサポートしていきたいと思っています。

私は、これまでたくさんの人に出会い、たくさんの方の影響を受けてきました。これからも、一つ一つの出会いを大切にしていきたいと思っています。

最後になりますが、同窓生、恩師の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

来年度白梅会総会のお知らせ

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となりました。来年度は令和三年八月一日（日）に開催予定です。同窓生の皆様の多くのご参加をお待ちしております。

編集後記

お忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

多くの方々との深い絆を再確認することができました。ありがとうございます。

同窓生の皆様のご健康、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

当番幹事

小城下留美子、門脇ゆきえ
中山真由美、青沼理恵
八島いづみ、遊佐綾子
平田香緒里、千葉友子
菅原香奈、吉田郁恵
(普53回生・衛32回生・平成13年卒)